

「世界一大きな絵」
有田小が一部披露
福岡市役所
福岡市立有田小(早良区)

7月24日(金) 西日本新聞 朝刊



ロジエクト「世界一大きな絵」が企画。同小の計144人が1カ月半かけ、5畳四方の布に、福岡の

プロジェクト「世界一大きな絵2020」の一部。2020年東京五輪・パラリンピックでのお披露目を目指す。東京のNPO法人「アイデンティティ」が

の児童が世界平和をテーマに描いた絵を完成させ、23日、代表の6人が市役所を訪れ、高島宗一郎市長に披露した。写真は98カ国の児童が国や宗教、人種を超えて一枚の絵を描くプロ

豊かな自然とふれあう子どもたちの姿を描いた。2年の縄田優奈さん(8)は「どれくらい大きな絵になるか楽しみ」と笑顔を見せた。

7月24日(金) 毎日新聞 朝刊



有田小の児童と完成した絵

市長に報告
「世界一大きな絵」プロジェクト参加
有田小(早良区)の作品が完成

98カ国以上の子どもたちが参加する「世界一大きな絵」の制作に取り組んだ福岡市立有田小学校(早良区、小原隆夫校長)の児童らが23日、市役所を訪れ、高島宗一郎市長に絵の完成を報告した。NPO「アイデンティティ」プロジェクト(東京都)が企画した、世界中の子どもが5畳四方の木綿に描いた絵をつなぎ、東京五輪が開かれる2020年に一枚の巨大な絵を完成させるプロジェクト。絵は東京五輪会場でのお披露目を目指し、最終的には被爆地広島の小学校の資料館に納められ、未来の子どもたちに贈られる。

有田小の児童は昼休みや図工の時間などを使い約1カ月半かけて制作。5年生が福岡タワーやヤフオクドームなど街の景観を描き、2年生が周囲の海や山でスイカ割りやサッカーなどをして遊ぶ自分たちの姿を描いた。2年生の後藤蒼空君(7)は「この絵が他の国の絵とつながって、もっと大きくなることを楽しみにしています」と話した。

【林由紀子】